

災害が発生したら

正確な情報を収集する

- 倒れやすいものから離れ、落下物に注意。
- むやみに動かず安全を確認。
- 非常口やドアなどを開けて避難口を確保。
- 避難は徒歩で、荷物は最小限に。
- エレベーターを使用せず階段で避難。
(本学のエレベーターは地震が発生した場合、自動的に停止するシステムになっています。)
- 正確な情報収集に努め、なるべく集団で行動。
- 負傷者の救護や初期消火に協力。
- 家族との安否確認および大学へ安否連絡。

地震発生直後は裏面へ

大学への連絡方法

安否連絡について

大地震が発生した場合、本学は学生・教職員の安否確認を行います。地震発生時に登校していない場合には、連絡可能な状況になり次第、下記の方法で大学に連絡してください。

- メール
(学生用) anpis@reitaku-u.ac.jp
(教職員用) anpit@reitaku-u.ac.jp

- 電話
(学生用) 04-7173-3651
(教職員用) 04-7173-3601

※電話がつながりにくくなる可能性が高いのでなるべくメールで連絡してください。

【報告事項】 ①氏名 ②学籍番号/教職員番号
③本人・家族の状況 ④自宅や付近の状況
⑤その他の連絡事項

- 大学からの情報提供について
ホームページで確認してください。

日頃の準備

大地震の発生を防ぐことはできなくても、適切な準備を行うことで被害を軽減することができます。どんな備えが必要か考えておきましょう。

- 避難場所の確認(大学付近・自宅周辺など)
- 家族との連絡方法・待合せ場所の確認
- 災害用伝言サービスの確認と登録(メール宛先などの事前登録が必要)
- 帰宅ルート・所要時間の確認(災害時徒歩 約2.5km/h)
- 緊急時メモの作成・記入
- 具体的な情報収集手段・緊急避難場所などの確認(大学および通学途中)
- 転倒防止対策や緊急時アイテム(次ページ参照)の確認
- 大学・友人などへの連絡方法の確認・リスト整備

本マニュアルは、ホームページにも掲載しています。

memo

※記入は油性のペンを使用してください。

緊急避難アイテム

日頃から準備・携帯しておく便利な物

- | | |
|--|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 現金(小銭も) | <input type="checkbox"/> 学生証(免許証なども) |
| <input type="checkbox"/> 健康保険証 | <input type="checkbox"/> アドレス帳 |
| <input type="checkbox"/> タオル・ばんそうこう・包帯 | (家族、友人の連絡先を記入) |
| <input type="checkbox"/> 手回し充電ラジオ・ライト | <input type="checkbox"/> 雨具(カッパなど) |
| <input type="checkbox"/> ティッシュ・ウエットティッシュ | <input type="checkbox"/> 携帯充電用USBケーブル |
| <input type="checkbox"/> 非常用保温アルミシート | <input type="checkbox"/> ポリエチレン製ごみ袋 |
| <input type="checkbox"/> チョコレート・あめなど | <input type="checkbox"/> 油性マジックペン |

その他非常時に必要なアイテム

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 貯金通帳 | <input type="checkbox"/> 上着・下着・靴下 |
| <input type="checkbox"/> 常備薬とその処方箋 | <input type="checkbox"/> リュック |
| <input type="checkbox"/> 運動靴 | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 |
| <input type="checkbox"/> 卓上コンロ(カセットボンベ) | <input type="checkbox"/> ろうそく |
| <input type="checkbox"/> ひも・ロープ | <input type="checkbox"/> 缶切り・栓抜き |
| <input type="checkbox"/> 予備電池 | <input type="checkbox"/> 洗面用具 |
| <input type="checkbox"/> スリッパ | <input type="checkbox"/> 非常食用料・水
(缶詰・カンパンなど) |
| <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ | |
| <input type="checkbox"/> 印鑑 | |

家族への連絡方法

NTT災害用伝言ダイヤルサービス

地震など大災害発生時に、安否確認などの電話が爆発的に増加し、つながりにくい状況になった場合、提供されるサービスです。

171 をダイヤル

録音 1	再生 2
確認番号を利用する録音 3	確認番号を利用する再生 4

被災地の方の電話番号を入力

伝言の録音 (30秒以内) 1*	伝言の再生 1*
----------------------------	-----------------

*ダイヤル式電話機の方は操作不要です。

電話番号 - - 事前に記入しておきましょう

詳しいサービス概要や、ご利用方法はNTTのホームページをご覧ください。その他携帯各社で提供されているサービスについては、各ホームページをご参照ください。

事前の登録が必要です! (事前にテストをしてください) 携帯各社の災害用伝言板サービス

大規模災害時に携帯電話から安否確認(安否情報の登録)ができる災害用伝言板サービスです。あらかじめ指定したご家族や知人に対して、災害用伝言板に登録されたことをメールでお知らせする機能も提供されます。また、インターネットからも安否情報の確認が可能です。

各社の QR コードはこちら

 NTTドコモ	 au
 ソフトバンク	 ワイモバイル

NTTドコモ	http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi
au	http://dengon.ezweb.ne.jp/
ソフトバンク	http://dengon.softbank.ne.jp/
Y!mobile	http://dengon.ymobile.jp/

大規模災害 対応マニュアル SAFETY GUIDE



緊急時パーソナルメモ

氏名 _____

性別 _____ 血液型 _____

生年月日 _____

学籍番号/教職員番号 _____

学部 _____

学科 _____

住所 _____

電話番号 _____

緊急連絡先 _____

持病 あり/なし 常用薬 あり/なし

アレルギー あり/なし (_____)

自宅近くの避難場所 _____

家族との待合せ場所
家族と共有しておきましょう

※記入は油性のペンを使用してください。

地震発生直後

揺れがおさまったら

落ち着いたら①

落ち着いたら②



地震発生 身を守る

今いる場所は
本当に安全？

YES
その場所を動かない

NO
避難場所へ避難



家族との 安否確認

自宅が大学に
歩いて帰れる？

YES
自宅が大学へ

NO
避難場所へ



大学へ 安否連絡

POINT

POINT

POINT

POINT



大学にいるとき

大きな揺れを感じたら

- **危険物から離れる**
窓ガラスなど、周囲に危険なものがある場合は、すみやかにその場から離れましょう。
- **落下物から頭と手足を守る**
机の下にもぐる、バッグなどで頭を覆うなどして、頭と手足を守りましょう。
- **出口を確認する**
ドアを開け、出口を確認しましょう。
- **揺れがおさまるのを待つ**
安全を確保して、揺れがおさまるのを待ちましょう。

- 落ち着いて行動しましょう。
- 校舎は耐震構造で安全です。
- 館内放送があれば、指示に従ってください。

自分自身の心構え

- 冷静に、落ち着きましょう。
- 建物の傾き、壁のひびなどを確認しましょう。
- 火災が起きていないか？火災の場合は自分の身が安全な範囲で周囲の協力を得ながら初期消火してください。また、消火が困難と判断した場合は、火から離れてください。
- 負傷者はいないか？負傷者がいる場合は安全な範囲で周囲の協力を得ながら応急手当をし、教職員に連絡しましょう。
- 余震の可能性もあるため、あわてずしばらく様子を見ましょう。
- ガラス、黒板などが倒れるおそれがなく、天井からの落下物が無いと確認できた場合は、動かない方が安全です。

行動に移るときの注意点

- 火災の場合は煙を吸わないよう、タオルなどで口を覆ってください。
- 移動する場合は、エレベーターを使わずに階段で移動しましょう。

大学を基点とした避難場所

あらかじめ以下の場所を避難場所として想定していますが、状況により安全な場所へ避難してください。



帰宅する？それとも大学に残る？

余震がおさまらず落ち着いたら、自宅に帰るか検討しましょう。交通機関が動いていない場合は歩いて帰宅することになります。その場合の距離の目安は10kmです。10kmよりも遠い人は避難場所へ。また、テレビラジオなどで正確な情報を収集しましょう。

徒歩帰宅可否判断基準

下記項目に1つでも当てはまる場合、徒歩帰宅はお勧めできません。

- 2.5km/時で歩行した場合、帰宅予定時刻が日没以降となる。
- 携帯電話などの通信機器を持っていない。
- 自宅までの道のりが分からない。
- 自宅までのルートが通行制限区域及び火災発生地域になっている。
- 同一方面の帰宅者がいない。
- 運動靴などの歩きやすい靴を履いていない。

自宅付近の避難場所 ※予め調べておきましょう



通学中

- 周囲の状況に注意し、身の安全の確保を最優先としましょう。
- 塀、電柱、自動販売機などから離れ、落下物にも注意してください。
- 「帰宅する」か「大学に向かう」か「最寄りの安全な場所に避難する」か、は自分で判断してください。

- 被害状況を正しく把握しましょう。
- 事前に家族と相談して決めた避難場所に移動してください。ただし、被災場所やその場の状況によっては安全を最優先し、別の避難場所に移動しましょう。
- 避難中は警察や消防の指示に従ってください。

家族の電話番号

-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

大学の近くにいる場合

- 多くの人が一斉に帰宅すると各所で混雑が発生するため、余裕を持つことも大切です。周りの状況を確認してから帰宅しましょう。
- 災害時の歩行速度は時速2.5km程度、10kmは4時間を要することになります。
- 麗澤大学（廣池学園）は柏市の広域避難場所にも指定されています。
- 近くに避難する場所がなく、大学の近くにいる場合は、大学に避難してください。

麗澤大学から10kmの地図

